

令和 4 年 度

大阪市立校園PTA役員・委員研修会

担 当 中 央 区 P T A 協 議 会

浪 速 区 P T A 協 議 会

西 成 区 P T A 協 議 会

淀 川 区 P T A 協 議 会

主催 大阪市PTA協議会
大阪市教育委員会

令和 4 年度 大阪市立校園PTA役員・委員研修会開催要項

1. 日 時 令和 4 年 5 月 14 日(土) 受付 13 時 30 分

開会 14 時

閉会 16 時 10 分

2. 主 催 大阪市 PTA 協議会

大阪市教育委員会

3. 参 加 者 令和 4 年度単位 PTA 役員および委員

4. 場 所 第 1 分科会 中央区民センター（後日、録画配信あり）

第 2 分科会 浪速区民センター

第 3 分科会 西成区民センター

第 4 分科会 （後日、録画配信）

5. 日 程

	1:30	2:00	2:05	2:10	2:15	2:20	2:25	2:30	2:35	2:40	2:45	2:50	2:55	3:00	3:05	3:10	3:15	3:20	3:25	3:30	3:35	3:40	3:45	3:50	3:55	4:00	4:05
第 1 分科会	受 付	開会式		事例発表					講 話												質 疑 応 答	閉会式					
第 2 分科会	受 付	開会式		事例発表								講 話													質 疑 応 答	閉会式	
第 3 分科会	受 付	開会式		事例発表					講 話												質 疑 応 答	閉会式					

6. 録画配信 5 月 22 日(日)～ 6 月 4 日(土)

大阪市 P T A 協議会ホームページ

「令和 4 年度大阪市校園 P T A 役員・委員研修会」

をクリックしてください。

<http://www.osakacity-pta.jp/r4-ptayakuiniinkensyu/>

パスワード：r42022514



令和4年度 大阪市立校園PTA役員・委員研修会

分科会	会場・録画配信期間	事例発表	講話	運営責任者	司会・記録	会場責任者	会場設置 会場整理 会場受付
1	J:COM 中央区民 センター 録画配信 (5/22～6/4) (東ブロック)	・大阪市立高津小学校PTA（中央区） 「高津小学校の誇り ～文楽学習とPTAとの関わり～」 PTA会長 吉田 宏 興	講師 元大阪市立高津小学校 校長 様 演題 「一ふれあい学習・ 子ども文楽学習を柱に一」	副会長 橋本 久保 子 佳 朋 子	司会 杉 山 緑 記録 福田 健 二	中央区PTA協議会 会長 大重 幸 司	中央区 PTA
2	浪速区民 センター (西ブロック)	・大阪市立立葉幼稚園PTA（浪速区） 「ふれあいを大切に～PTAの固い結束～」 PTA会長 小畑 和 明 ・大阪市立難波元町小学校PTA（浪速区） 「地域と子どもたちを笑顔でつなぐ PTA活動を目指して… 難波元町小学校PTAの取り組み」 PTA副会長 三浦 竜 也	講師 一般社団法人 日本落語振興協会 演題 「落語家がこっそりと教える 笑いと言葉で情操教育のススメ」	副会長 山内 川 憲 之 子 瀧 川 輝 子	司会 有 富 恵 子 記録 上 原 真 一	浪速区PTA協議会 会長 瀬川 晴 美	浪速区 PTA
3	西成区民 センター (南ブロック)	・大阪市立千本小学校PTA（西成区） 「抽選による委員選出制の廃止と 『千本カーニバル』の開催」 PTA会長 内田 新之介	講師 ウィメンズセンター大阪 代表 SAP子どもサポーター 代表 薫 様 演題 「『子どもの人権』を守るために、おとなにできること ～子どもを取り巻く『もしも…』に備えるために～」	副会長 岡村 村 博 利 貴 谷 村 村 利 貴	司会 松 村 順 平 記録 岡 部 典 方	西成区PTA協議会 副会長 北 良 優 子	西成区 PTA
4	録画配信 (5/22～6/4) (北ブロック)	・大阪市立新北野中学校PTA（淀川区） 「新北野中学校で新たな取り組み 『北中ミライカイギ』について」 PTA副会長 坂井 肇	講師 森ノ宮医療大学 医療技術学部 教授 演題 「未来社会を生き抜く逞しい子どもを 育てる教育方法」	副会長 中野 武 仁 研修委員長 岡久美子	司会 在 川 洋 平	淀川区PTA協議会 会長 在 川 洋 平	淀川区 PTA

※ 敬称略 発表者の役職は令和3年度のものです

<第1分科会 事例発表>

「高津小学校の誇り～文楽学習とPTAとの関わり」

事例発表者 令和3年度 大阪市立高津小学校PTA(中央区)

会 長 吉 田 宏 興

はじめに

高津小学校は1872年(明治5年)9月、南大組第2大区12番小学校として創立されました。その後、1887年(明治20年)4月、大阪市立高津尋常小学校に改称され、今年度創立150周年を迎える歴史と伝統のある学校であります。

高津地域は1つの連合振校町会、1校下であることから地域とのつながりも大変根強く、わいわい祭り、防災訓練、もちつき大会などの行事は、学校とPTA・町会が協力し子ども達はもとより地域の方々にも参加して頂き盛り上げています。

(令和2年～3年は全て中止となりました)

地域の繋がりには他にも高津宮の夏祭りで、子ども神輿とともに子どもとPTA父兄と一緒に参加、黒門市場でのお店体験では保護者の参観形式になっています。

国立文楽劇場は高津小学校・旧敷地跡に建設され、人形浄瑠璃発祥地が近く、一時は歌舞伎の人気に押されて廃れつつあった文楽人形浄瑠璃の系統を引き継ぎ、高津橋に座を作り再興した歴史つながりで、2000年(平成12年)PTA、連合町会の働き掛けにより高津子ども文楽が始まりました。当時のPTA役員の方のお話では、単発的な地域交流が目的だったのですが実際に体験を通して子ども達はとても関心を示し、熱心に取り組む姿勢をみてPTA・連合町会が文楽委員会を発足させました。翌年2001年(平成13年)には人形浄瑠璃・文楽学習が始まり学習発表会で6年生による発表が行われました。

*子ども文楽学習について

練習の様子(太夫)

太夫とは浄瑠璃の語りのことです。

教えていただく技芸員の先生は、六代目竹本織大夫先生です。子どもたちは複数人で交代で演目を語ってゆきます。



(三味線)

三味線は鶴澤清公先生・鶴澤清軌先生に教えていただきます。

大人用の三味線を小さな子どもが扱うため大変に難しいようです。

(人形)

人形遣いは人間国宝の桐竹勘十郎先生と桐竹勘次郎先生です。人形は主遣い・足遣い・左手遣いの3人で一つの形を生きているように動かします。3人の呼吸を合わせないと自然な動きにはなりません。



(笛)

藤舎次生 先生に教えていただきます。

以前までは先生が吹いてくださっていたようですが、子どもたちだけで作り上げる文楽という事。今では先生の指導のもと、頑張っているようです。

平成13年度に始まった文楽からは、太夫に弟子入りした高津小卒業生の豊竹咲寿太夫さんをご活躍されています。

地域・PTAの支援

子ども文楽委員会 高津地区まちづくり推進協議会からなる地域・PTAによる文楽支援などを行うPTA会長を会長とした委員会です。

文楽委員会 (PTA)

夏季休業中に文楽の練習を行う際に、6年生の父母が技芸員の先生方に謝意を表して茶菓をお出しします。役割分担や日時の割り当てなど文楽委員長がディスカッションして決めています。挙手してくださる方も多く、委員長はスムーズに決めることができましたとの事でした。発表当日は太夫・三味線の子どもが袴を着るため、それまでに着付けの練習が数回あります。保護者は着付けの先生に習いお手伝いします。衣装の管理なども文楽委員が行います。



「—ふれあい学習・子ども文楽学習を柱に—」

講 師 元大阪市立高津小学校 校長
金 井 佳 孝 様

<メモ>

<第2分科会 事例発表>

「ふれあいを大切に～P T Aの固い結束～」

事例発表者 令和3年度 大阪市立立葉幼稚園P T A(浪速区)

会 長 小 畑 和 明

1. 幼稚園紹介

大阪市立立葉幼稚園は、昭和28年度創立、数年後に創立70周年を迎える歴史のある幼稚園です。都会の中にありますが、子ども達が自然に沢山ふれあえるように、幼稚園で畑を耕し、年間を通して食物を栽培し、収穫を楽しんでいます。また、夏には、親子栽培として、鉢植えで1人1人野菜を育てて菜園を楽しんでいます。栽培を通して食への興味関心を高め、生き物とのふれあいを学んでいます。



2. 立葉幼稚園P T A組織について

P T Aでは、保護者全員がどこかの組織に所属しています。小さなお子さんがいらしたり、お仕事をされていたり、様々な事情がありますが、立葉幼稚園は少人数ですので皆で運営しているという感じです。小さなお子さんと参加できる方法を考えたり、一緒に楽しんだり、また、体調が悪い時には、お互いに助け合ったりもしています。

3. 活動内容

- ・ 6月 ふれあいなかよしデー



6月は、ふれあいなかよしデーがあります。区民センターをお借りして、全学年の園児・保護者・先生がゲームや体操、ダンスを通じて交流する参加日を実施しています。

委員会では、その時に使うカード、メダル、お面などを作ったりゲームの内容や当日踊る体操の練習をしたりします。当日は、会場の受付、注意事項の掲示、授乳スペースの設置など小さなお子さんのいる家庭でも負担なく、楽しんでもらえるようにしたり舞台上で体操やダンスを踊ったりします。

- ・ 7月 なつまつり



7月には、立葉なつまつりがあります。実行委員が中心となり、子どもたちが楽しめる当物ゲームや、夜店のようにポップコーンやジュースなどを用意して子ども達に楽しい時間を過ごしてもらるように工夫しています。

・ 12月 お餅つき, P T Aバザー



12月は園内でお餅つきを行います。

初めは、お餅つきに参加している大人が、協力しあってお餅をつき、柔らかくなってから子ども達がお餅をついていきます。委員会では、前日から、もち米・臼・杵・餅箱などの準備をし、当日は、つきたての餅をすぐさま切り分けて各クラスの子ども達に配り、鏡餅の完成を楽しみにしています。



同月に、地域の方もお招きできるP T Aバザーも開催しています。

10月上旬ごろから当日までに、幼稚園生活で使う雑貨や、ヘアゴムなどの手作りの品の作成、持ち寄り品などの整理を行い設営や値札を貼り、飾り付けなどの準備を行います。バザー当日は、受付や会計など運営を中心にして活動し、毎年沢山の方々にバザーを楽しんで頂いております。

4. コロナ禍でのP T A行事

本年度行われたP T A行事は、12月のお餅つきです。立葉幼稚園のお餅は、コロナ禍より前から飲食用ではなく、観賞用の鏡餅をついています。

＜お餅つき内で行われたコロナ対策＞

- 教職員・お手伝いPTA役員（9名）のビニール手袋、マスク着用
- 出入り口の一括化、換気
- アルコール消毒
- 検温
- 保護者の当日参加人数把握（21名）

餅つきが終了したクラスから保育室に移動し、10分程度で鏡餅ができ次第速やかに帰宅。保護者の皆様の協力により例年通りお餅つきを行うことができました。

5. まとめ

冒頭でもお伝えさせて頂きましたが、立葉幼稚園では全保護者の方が各委員会に所属して頂いております。その構成から「顔見知りの保護者の方はいないけどなじめるかな？」「昨年は〇〇が原因で開催できなかったね。」という意見や細やかな配慮が沢山見受けられ、信頼が厚いPTAだと日々感じております。

コロナ禍の影響で中止になった行事が多い現状ですが、立葉幼稚園PTAが大切にしてきた「ふれあい」をこれからも、しっかりと繋いでいきたいと考えています。

「地域と子どもたちを笑顔でつなぐP T A活動を目指して… 難波元町小学校P T Aの取り組み」

事例発表者 令和3年度 大阪市立難波元町小学校P T A(浪速区)
副会長 三 浦 竜 也

1. 難波元町小学校について

難波元町小学校は難波小学校・元町小学校の2校が、都心部で起こるドーナツ化現象による児童数減少の影響を大きく受け1985年に統廃合され開校しました。大阪市での市立小学校の統廃合は、学制改革による新制小学校発足以降では難波元町小学校が初めてのケースとなりました。

商業施設が立ち並ぶ難波の一角に立地しており、小規模校としてのメリットを活かした算数科での少人数指導、漢字習得、国際理解教育、コンピュータを活用した学習、1人1台の一輪車導入など、先生方には子どもたちにより近い位置で日々指導していただいています。

コンピュータ活用学習は、1985年に難波元町小学校の開校当時から取り組んでおり、大阪市の学校の中では最も早い時期から取り組みを進めている学校のひとつともいわれています。

当時、大阪市の統廃合モデル校ということもあり、地域やP T Aが活発に活動をする学校として、現在も多方面で子どもたちや地域の為にP T A組織は積極的に活動を続けています。



2. 難波元町小学校におけるP T A組織

本校のP T A規約には『実行委員会は毎月1回定例会を開催する。ただし2月、8月を行わない(第36条)』と記されており、毎月本校の多目的室に役員・委員が集まり実行委員会を実施しています。令和2年度から新型コロナウイルスの緊急事態宣言中はS N Sを活用した会議となりましたが、緊急事態宣言が解除されると感染対策に配慮しながら現在も委員会活動を進めています。

本校では総務・学級・広報・成人教育・給



食保健・校外地域・成人体育・厚生・人権啓発の9つの委員会で構成されており、各委員会には委員長と副委員長が属しています。PTA会員はこの委員会のいずれかに所属し、委員長以外は全員『副委員長』として役を務めています。

新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、学校教職員と役員、委員長のみで実行委員会を実施しています。(例年は副委員長も各委員会1～2名参加し30～40名の会員で実行委員会を実施)

3. 地域行事への積極的な参加

難波元町小学校の校区内には獅子舞台で有名な難波八阪神社があり、本校の子どもたちは獅子舞や太鼓、こども神輿などに参加しています。PTAとしても、子どもたちの見守りの為に夏祭りの巡視や神輿、獅子舞の巡行の見守りを行っています。

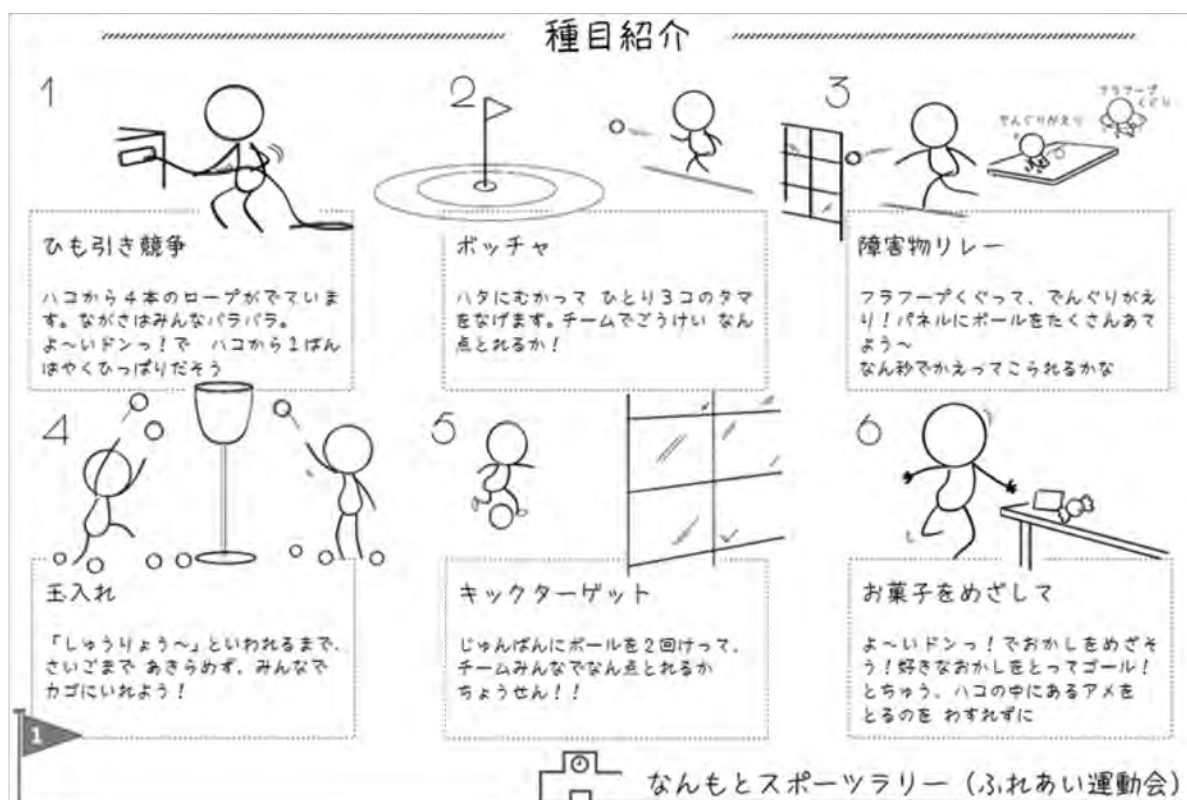
また2月には同神社で行われる節分祭でPTA役員は鬼のお面をつけ鬼役で登場します。泣きながら逃げる子どももいれば、鬼に立ち向かってくる勇敢な子どもたちもいて、寒い中でも子どもたちの温かな笑顔で地域が和みます。



その他にも校区内各町会対抗の地域運動会(ふれあい運動会)が毎年10月に実施されており(実施実績29回)子どもたち・学校・地域のつながりをより深める行事として、PTAも運営に協力しています。(令和2・3年度は新型コロナウイルス感染拡大の為に中止)

4. コロナ禍にも負けないPTAを目指して挑戦!『なんもとスポーツラリー』

多くの学校行事や地域行事が中止になる中で、「子どもたちの思い出になる行事が何かできないか」をPTAで話し合い、令和2年度に『ふれあい運動会』の代わりに『なんもとスポーツラリー』をすることになりました。学年やクラスごとで競技をすると密集となり、できる競技が限られてしまいます。そこで、校庭を競技ごとに区切り、子どもたちが4人1チームで順番に競技を回っていく仕組みで計画を練りました。



5. なんもとスポーツラリーの感染対策

- ① 参加は事前申込制とし、イベント内容の説明と参加申込書を学校経由で配布
- ② 参加可能範囲は在校生のみ（保護者・卒業生・未就学児のために観覧場所を設置）
- ③ 回収した申込書をもとに運営委員会にて参加者名簿を作成
- ④ 出入り口は1か所のみとし、受付でマスク着用確認・手指消毒・検温・体調確認・名簿と照合
- ⑤ 景品は子どもたちが選ぶのに迷わないよう、時間短縮を目的に種類を絞って準備
- ⑥ 開会式後に手洗い場でせっけんを使って手洗いをしてから競技開始
- ⑦ 1競技およそ5分程度で終え、グループが重ならないように順次出発を配分
- ⑧ 競技終了したグループから自由解散として密集を避ける

令和3年度なんもとスポーツラリー参加者数

在校生206名 当日参加選手126名 / 付添保護者77名 PTAスタッフ35名

【令和2年度実施時の参考データ】

在校生191名 当日参加選手103名 / 付添保護者56名 PTAスタッフ35名

6. 難元花火大会

- ① 例年は8月第一日曜日に”なんもと夏フェスティバル”として、子どもたちに多くの模擬店と花火を楽しんでもらうイベント
- ② 令和2年度と3年度はコロナ禍でも開催できる形として模擬店は中止にして、花火観覧のみのイベントとした
- ③ 令和3年度は夏休み期間が緊急事態宣言期間と重なったため、11月の“なんもとスポーツラリー”と同日開催を目指すことにした
- ④ 参加方法はスポーツラリーと同じく事前申し込み制



参加者実績は子ども・保護者合わせて196名

7. おわりに

難波元町小学校PTAはこれからも学校・地域と連携しながら、子どもたちの教育環境の向上や未来へ向かって生き抜いていく力を育てていくためにできることを考えていきます。子どもたちの笑顔で学校・地域も元気になれる。「大人も子どもも笑顔になれる場をいっぱい作る！」を掲げ、コロナ禍の困難な状況ですが、見方を変えればこれまではなかったことに取り組める絶好のチャンスでもあります。アフターコロナを見据えPTAでも今のこの状況を活かし、さらなる発展へとつながるようにみんなで考えていく時期だと思います。

最後になりましたが、日常の授業はもちろん、外出授業や泊行事の実施についても日々懸命に努力してくださっている学校教職員みなさまに感謝しております。そして本日、浪速区へお越しくださったみなさま、長時間のご清聴ありがとうございました！

「落語家がこっそりと教える
笑いと言葉で情操教育のススメ」

講 師 一般社団法人 日本落語振興協会
桂 きん太郎 様

<メモ>

「抽選による委員選出制の廃止と 『千本カーニバル』の開催」

事例発表者 令和3年度 大阪市立千本小学校PTA(西成区)
会 長 内 田 新之介

・はじめに

新型コロナウイルス感染症に罹患されたPTA会員やご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、医療従事者をはじめ、社会を支えるために頑張っている全ての方々に敬意と感謝を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大というこれまで経験したことがない状況が長く続いており、各会員の皆様におかれましては、種々ご苦勞され、また様々なお取組みをされていることと思います。

そのような中で千本小学校PTAでは会員の皆様や、教職員の方々と協力し合いながら、子ども達の学校生活向上の為に様々な活動を行って参りました。しかし、時代の移り変わりとともに、見直しをしていくことが必要ではないかと考え、ここ数年、改善を重ねて参りました。今回は千本小学校PTAが行った改善について発表させていただきます。

1、抽選による委員選出制の廃止

千本小学校PTAでは、

- | | |
|--------------|------------------|
| ・総務・学級委員会 | ベルマーク集計・制服提供会 等 |
| ・人権啓発・地域委員会 | 生根神社祭巡回、校庭芝生管理 等 |
| ・広報委員会 | 広報誌作成 等 |
| ・成人教育委員会 | 社会見学 等 |
| ・体育・保健・給食委員会 | ラジオ体操、給食試食会 等 |

の5つの委員会があり、委員会ごとにPTAとしての活動を行っています。毎年各学年、各クラスごとに5つの委員会の委員を1名ずつ抽選で選び、1年間、委員会のメンバーとしてPTA活動に参加をしていただいております。

しかし、抽選という方法で委員を選んでいることから、「仕事や育児などでPTA活動を行う時間がとれない」や、「他の人は何もしないのに何故自分だけPTA活動に参加しないといけないのか」などの意見が毎年役員に上がってきていました。

そのような状況で毎年度初めに行う各委員会の委員長選出や、活動ごとの担当決めは当然のように毎年難航。役員にとっても、委員にとっても非常に辛い場となっていました。

【問題点】

時代が移り変わり、共働き世帯が非常に増えてきている世の中で、このままの形を継続することの限界を感じていました。

もっと気軽に負担なくPTA活動に参加出来る環境をつくらないと今後、PTA活動自体を行うのが困難になってしまう。

【改善策】

令和3年度より、委員を抽選で選ぶことを止め、全PTA会員がどれかの委員になって頂き、1年に1度だけPTA活動に参加して頂く形に変更しました。

前年度のうちに全PTA会員に、新年度の年間PTA活動一覧表と、申込書を作成し、1年間に1度だけ、興味のある活動や、無理なく参加出来る活動に申し込んで頂き、年間のPTA活動の担当者を決定します。

新年度が始まると、各会員にPTA活動に参加をして頂きます。

【今後の課題】

今年度からの新しい取り組みであり、役員も試行錯誤しながらではありますが、全会員にPTA活動に参加して頂くことで、PTAが何をしているのかを知ってもらう機会にもなったと感じています。

しかしながら、全会員に参加してもらうこととなったことで、その段取りを行う役員の作業負担が増えてしまいました。

今後は役員の負担を減らせるように更なる改善を行っていく予定です。

2、PTA主催での『千本カーニバル』開催

この2年弱の間、新型コロナウイルスの影響により、数ヶ月の学校休校がありました。また、学校再開後もイベントの中止や、規模縮小を余儀なくされました。それ以外にも生活様式の大きな変化など、子ども達の学校生活にも大きな負担となっています。

そういった中、PTAとして子ども達に心から楽しめるイベントを一つでもやってあげたい、という思いから、令和3年度より初めてのPTA主催イベント『千本カーニバル』を開催しました。

千本カーニバルについては実施内容について担当委員が春から何度も打ち合わせを重ね、12月に開催することが出来ました。

千本カーニバルは令和3年12月12日に開催。

前日には委員の皆さんと役員が学校内の飾りつけを行い、当日は多数の保護者の方にボランティアで参加して頂き、「コインおとし」や「音当てゲーム」など4つの模擬店を開き、子ども達に遊んでもらいました。

それはさながら大人達の学園祭のようでした。最後は全員参加のビンゴゲームを行い、子ども達はもちろんのこと大人たちも一緒に盛り上がりました。

今年度初めての取り組みとして行った「千本カーニバル」ですが、子ども達からは「すごく楽しかった！」と大好評でした。また会員に行ったアンケートでも好意的な意見が多数でした。

しかし、カーニバルに参加した200名ほどの子ども達のうち、ケガをした子が数名発生したことなど反省をしないといけない部分もございました。今年度の振り返りを行ないながら、来年度も子ども達が楽しめるイベントを開催できるように検討を重ねて参ります。

・最後に

コロナウイルスの問題や、時代の移り変わりによりPTAの在り方について見直しをしないといけない時を迎えています。会員の減少や、人間関係の変化、コンプライアンスの尊重など、たくさん問題について改善が必要となっておりまして。そのような状況の中で、PTA役員として、会員の皆様や、教職員の方々、地域の方々との協力関係をより一層深めながら、時代に即した改善を重ね、今私たちの手元にあるバトンを次の世代に責任をもってバトンタッチをしていこう、というのが役員内での共通認識となっています。PTAをより発展させていくことが、きっと子ども達の笑顔に繋がっている、と信じて進んで参ります。

「『子ども的人権』を守るために、おとなにできること
～子どもを取り巻く『もしも…』に備えるために～」

講師 ウィメンズセンター大阪 代表
SAP子どもサポートセンター 代表
原田 薫 様

<メモ>

「新北野中学校で新たな取り組み 『北中ミライカイギ』について」

事例発表者 令和3年度 大阪市立新北野中学校PTA(淀川区)
副会長 坂 井 肇

新北野中学校で昨年度から開始しているミライカイギについて、ご紹介させていただきます。ミライカイギは、生徒、学校の教職員、保護者の三者の代表が集まって、新北野中学校の明るい未来に向けて、テーマに沿って意見交換を行うための会議です。

その会議では、それぞれの立場での困りごと(課題)を共有して、学校教育や運営における様々な活動をより良いものにするための解決策・改善策を一緒に考えていきます。



まず、生徒、教職員、保護者が分かれて席につきます。
前に立っているのは、一人が進行役で、もう一人がそのサポート役です。



自己紹介です。



次に、生徒、教職員、保護者のそれぞれがそれぞれの課題と、困っている点を上げて、正面のホワイトボードに書き込んでいき、それぞれの内容について説明をしていきます。全ての課題、困っていることに触れられたら良いのですが、そうすると時間がオーバーしてしまいますので、今回は生徒の課題「どうすれば生徒が楽しく学校生活を送れるのか」をテーマとしました。



次に、席替えをして、生徒、教職員、保護者が一つのテーブルに座り、そのテーブルごとにテーマについての話し合いを進めます。

課題に対して、困っていること、まずは身近な制服のこと、髪型のことで話し合いが行われました。

内容はいたって真剣なもので、制服については、温度調整のために制服のインナーはもう少し幅を持たせて欲しい、制服をブレザー式にしてはどうか、女子のズボンを選択制にしてはどうか、等々の意見が。髪型については、納得できる理由が欲しい、何でも良いというわけにはいかないからどこかで基準は必要、生徒から働きかけて自らで髪型の基準などを決めていったらどうか、という意見が三者の話し合いの中から出されました。

今回は時間の都合で結論には至りませでしたが、3者から前向きな意見を出し合う有意義な会議となりましたので、今後とも継続して取り組んでいきたいと考えています。

「未来社会を生き抜く逞しい子どもを育てる教育方法」

講 師 森ノ宮医療大学 医療技術学部 教授

阿 部 秀 高 様

<メモ>